

関西大学第一高等学校・第一中学校 2023 年度学校評価報告書



2024 年 3 月

目 次

1	本校の概要	1
2	今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策	2
3	アンケートの実施状況について	7
4	アンケート結果の分析	8
5	学校関係者評価委員会からの評価結果	14
6	校長の意見書	17
7	アンケート結果	17

1 本校の概要

(1) 沿革

大正元年8月	文部省告示を以て社団法人関西大学付属「私立関西甲種商業学校」設立認可
大正2年4月	本科3年制として開校
大正13年4月	「関西大学第二商業高校」設置認可、開校
昭和4年9月	天六新学舎が竣成し、従前の福島学舎から移転
昭和19年3月	第二商業高校、戦時学制改革により廃校
昭和22年4月	学制改革により関西甲種商業学校在学の1・2・3年をもって「関西大学第一中学校」を開校
昭和23年4月	学制改革により「関西大学付属第一高等学校」を開校
昭和24年3月	関西甲種商業学校第34回（有終）卒業式举行
昭和25年12月	旧千里山遊園地を買収、以後関西大学外苑と呼称
昭和27年9月	校名を「関西大学第一高等学校」と呼称
昭和28年11月	関西大学外苑高台に関西大学第一高等学校新校舎落成、天六学舎より移転
昭和30年3月	関西大学第一高等学校 第7回卒業式をもって、夜間課程を廃止
昭和32年11月	関西大学第一高等学校 校舎増築、中学校新校舎工事の落成式を举行
昭和36年11月	関西大学第一高等学校 創立50周年記念式典举行
昭和52年11月	関西大学第一高等学校 創立30周年（新制）記念式典举行
昭和56年3月	関西大学第一高等学校 新校舎落成
平成7年4月	関西大学第一中学校 共学化
平成10年3月	関西大学第一中学校 新校舎落成
平成10年4月	関西大学第一高等学校 共学化
平成11年2月	関西大学第一中学校・第一高等学校 体育館兼講堂 秀麗館落成
平成16年1月	関西大学親和館落成
平成25年8月	関西大学第一高等学校・第一中学校 温水プール落成
平成25年11月	関西大学第一高等学校 創立100周年記念式典举行 一高一中校舎リニューアル 正門整備 ICT教育設備完成
平成27年2月	一高グラウンド人工芝改修
平成27年9月	一中職員室改装
平成28年3月	一中1号館会議室改装
令和5年12月	関西大学第一高等学校・中学校 新校舎（景風館）落成

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

第一中学校・第一高等学校は「関西大学の併設校として、関西大学の建学の精神を受け継ぎ、真理に立脚した正義と近代市民の生活に根ざした自由かつ進取な気風を標榜して、心豊かな、有為な人材を育てることを根本に据える」という教育理念のもと、次のような教育方針並びに教育目標を掲げ、さらなる向上と充実に向けて、学校教育計画を策定している。

教育方針「正義を重んじ誠実をつらぬく教育」

- ① 青少年が内に蔵する無限の可能性を尊重し、これを啓発する。
- ② 生徒自身の真の幸福を追求する。
- ③ 進取の気性を養い、規律を重んじ、協同の自治と精神を育成する。

教育目標「知育・徳育・体育の高度に調和した人間教育」

- ① 将来につながる基礎的知識を確実に身につける。
- ② 集団の中における自己の責任を自覚し、豊かな人間性を育てる。
- ③ 自己の健康に留意し、体力の向上をはかる。

2 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

(1) 重点目標①：基礎学力ならびに幅広い教養を身につける。

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
ア 成績不振生徒に対してフォローを行い、基礎学力の向上を目指す。 【評価指標】 <高校> ・高校1・2年は年間4回の補習と成績下位者対象の補習、高校3年は独自テストや大学入学共通テストの補習を適宜実施する。 <中学> 定期考査の結果を踏まえ、5教科を中心に4時間の補習を2, 3学期期末考査前に実施する。	【取組状況(Do)】 (高校) 高1・2は既定の補習を実施し、成績下位層のフォローに努めた。高3は共通テスト対策ならびに、関西大学内部進学前の補習を適宜実施した。 (中学) 定期考査の結果を踏まえ、5教科を中心に4時間の補習を2, 3学期期末考査前に実施した。 【達成状況(Check)】 (高校○、中学◎) (高校) 補習は実施したが、成績下位層は一定数存在した。 (中学) 実技教科も含め補習授業を行うことができた。 【今後の改善方策(Action)】 (高校) 高3の1, 2学期において成績下位層のフォローをしていくような補習の設定を検討していく。 (中学) 新校舎景風館にできた様々な部屋を活用し、様々なレベルの学力補習を行えるよう検討する。
イ タブレット端末を活用し、多様な生徒1人ひとりに個別最適化された、資質・能力が一層育成できる教育を実施する。(図書)	自己評価 【取組状況(Do)】 タブレット端末の利用状況実態アンケートを11月に実施した。

【評価指標】 ・タブレット端末の利用により授業がわかりやすくなったとアンケートで回答した生徒が 75% 以上いる。	【達成状況 (Check)】 (◎) アンケートでは、中学・高校とも 90%以上の生徒がタブレット端末によって学習効果が上がったと回答している。 【今後の改善方策 (Action)】 今後も日常的に授業でタブレット端末を活用しやすくなるよう、機器の整備、研修の実施などを行っていく。
ウ 新図書室が生徒の学習環境を最適化しうる場所になるよう、整備計画の策定を進める。(図書) 【評価指標】 ・現行の図書室の蔵書を見直し、新図書館へ移行できる蔵書を確認する。 ・ラーニングコモンズを含めた新図書館案を確定させる。	自己評価 【取組状況 (Do)】 旧図書室からメディアライブラリーへの図書館機能の移転について、実施計画を策定した。また、図書エリア・コモンズエリア・クリエーションルーム・メディアシアターの利用に関するルールを検討を行った。 【達成状況 (Check)】 (◎) 機能移転に関しても、利用にあたってのルール策定も予定通り実施した。 【今後の改善方策 (Action)】 図書エリア・コモンズエリア・クリエーションルーム・メディアシアターの利用に関しては、実際に運用していきながら、今後も継続して利用にあたってのルールの検討を行う必要がある。
エ 各種検定の受検者数を増やす。(進路) 【評価指標】 ・各学期に各種検定の告知をする。	自己評価 【取組状況 (Do)】 英検以外の検定について受験を積極的に推奨することはできなかった。英検については受験期間を設定し受験させた。 【達成状況 (Check)】 (○) 英検については受験期間を設定することでほぼ全員が受験した。他の検定については、受験者数を増やすことができなかった。 【今後の改善方策 (Action)】 主体性評価の新指標をベースに、各種検定の取得が進路にどのような影響を持つか、具体的な説明の機会を設ける。

(2) 重点目標②：豊かな人間性を育成する

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
ア マナー、モラル向上のための指導を行い、規範意識を高める。(生指)	【取組状況 (Do)】

【評価指標】 ＜高校＞ ・規範意識を高める集会を年間3回実施する。風紀委員会を学期に1回以上開き、風紀向上の啓発を行う。 ＜中学＞ ・規範意識を高める集会を年間3回実施する。	(高校) 各学期の始業式・終業式後に全校集会を行い、生活指導主任がマナー・モラル向上について話をした。また、各学年では、学年の生活指導部教員を中心に規範意識の向上を促した。 (中学) 始業式や終業式、学年集会等を通じて各学年少なくとも1回は社会のルールやモラル向上についての指導をした。 また、各学期に1回生徒会や風紀委員会等の各委員会が委員会新聞の作成や挨拶運動等を行い、生徒主導でのマナー・モラル向上にも取り組んだ。 【達成状況(Check)】 (高校◎、中学◎) (高校) 各学期の始業式・終業式後の全校集会で講話を行い、外部からのクレームが減少した。生徒会や風紀委員会も積極的に活動した。 (中学) 規範意識を高める集会を年間3回以上実施し、マナー・モラル向上に取り組んだ。ただ、今年度は、ここ数年減少していた電車内のマナーに関するクレームが若干数増えた。 【今後の改善方策(Action)】 (高校) 次年度はさらに、生徒会や風紀委員会との連携を強化し、生徒同士が啓発しあえるような仕組み作りを図りたい。 (中学) 次年度も生徒たちと連携をとりながら彼らがより成長できるような環境づくりを図りたい。
イ 生徒が安心、安全な学校生活を送れるように支援体制を整える。(心から・図書) 【評価指標】 ・生徒対象に防犯教室や熱中症対策講習会などの研修会を中高それぞれ2回ずつ実施する。教員対象に救急救命や学校でよく起きる事故についての研修会を2回以上実施する。	自己評価 【取組状況(Do)】 健康診断の実施とデータを踏まえ、保健室と連携を取りながら指導を行った。4月の新入生オリエンテーションにおいて、感染予防と熱中症予防を呼び掛け、SNS関連の防犯教育を行った。また、鉄道警察官のご協力を得て、中1生対象の防犯教室を行った。5月は教員対象、12月には中2生徒対象の救急救命講習会を行い、心肺蘇生の必要性を理解し、方法を習得した。2月には人権教育部と協力をし、合理的配慮の義務化に向けての教員研修会を行い、支援体制への理解を深めた。 【達成状況(Check)】 (○) 4月、高1の防犯教室を警察署に依頼したが、他の対応で忙しく難しいとの返事であったため、保健の授業やホームルームなどでオーバードーズなど薬乱用の危険性などを生徒へ伝えた。 【今後の改善方策(Action)】 薬物乱用に対する生徒への予防教育や教員対象の研修会を行う。

ウ 人権意識を育む。(人権) 【評価指標】 <高校> ・人権 HR を各学年、学期に 1 回以上実施する。 ・「いじめに関するアンケート」を実施する。 <中学> ・いじめに関するアンケートを年 2 回実施する。 ・人権 HR を年 6 回以上実施する。	自己評価 【取組状況 (Do)】 (高校) ・人権 HR を各学年、学期に 1 回以上実施した。 ・全学年で「いじめに関するアンケート」を実施した。 (中学) ・いじめに関するアンケートを 6 月 (第 1 学期中間考査後) と 10 月 (第 2 学期中間考査後) に実施した。 ・中学各学年、2 回の人権講演会を行い、通算年 6 回の人権講演会を実施した。 【達成状況 (Check)】 (高校◎、中学○) (高校) ・全学年で人権 HR (動画視聴による人権講演会含む) を学期に 1 回以上実施した。 ・全学年で「いじめに関するアンケート」を 2 学期に実施した。 (中学) 各学年、年度内に 2 度のアンケートを実施し、2 回の人権講演会を実施した。 【今後の改善方策 (Action)】 (中学) 日頃より生徒の人権意識把握に努め、各学年に適切な人権講演会の内容を模索し、提案する。 (高校) 時代の変化に応じたテーマや手法を通じて、生徒の人権意識を育み高めるための人権 HR を創意・工夫して行う。
エ 関西大学が実施する各種セミナーへの主体的な参加を奨励する。(進路) 【評価指標】 ・年間に 3 回以上各種セミナーの告知をする。	自己評価 【取組状況 (Do)】 従来の学級掲示等による案内以外に Microsoft Teams を使って案内し積極的に参加するよう指導した。 【達成状況 (Check)】 (◎) 年間合計で 18 セミナーの告知を学級掲示と Microsoft Teams で行い、延べ 531 名の参加者数となった。 【今後の改善方策 (Action)】 将来の進路 (学び) と結びつく指導を行い、参加者の実数を増やしたい。

(3) 重点目標③：より良い授業を追求する

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
ア 特別な教科道德の授業力の向上を図る。(教頭) 【評価指標】	【取組状況 (Do)】 教室での道德授業以外にも、校外で教材になりうるものを検討する。

・ 道徳教育に関する授業力向上研修会に 3 回参加する。	【達成状況 (Check)】 (△) 中学 2 ・ 3 年に関しては、校外での充実した道徳教育を実現することができたが、中学 1 年生に関しては、教材や時期的なもので適するものが見つからず、充実した道徳教育の実現に結びつけることが難しかった。 【今後の改善方策 (Action)】 中学 1 年生に対する充実した道徳教育の実現に関しては、引き続き教材や時期的を検討していく。そして全学年、中身の拡充および充実を図る。
イ 教科ごとや教科を横断した研修会を実施する。(教頭) 【評価指標】 ・ 年間 2 回以上の研修会を開催する。	自己評価 【取組状況 (Do)】 新型コロナウイルス感染症等の状況により動画配信形式・対面形式・見学形式の方法で実施した。(対面形式での研修会を人権関係で 1 回、動画配信形式での研修会を人権関係で 1 回・図書情報関係で 1 回、また見学形式の研修会を図書情報関係で 2 日) 【達成状況 (Check)】 (○) 全て含めると 2 回以上は実施出来た。今後も対面形式・動画配信形式・見学形式・リモート形式等を組み合わせて実施していきたい。 【今後の改善方策 (Action)】 新型コロナウイルス感染症等の状況等を鑑み、可能であれば新型コロナウイルス感染症流行前の状況を基本とし教員のスキルアップの研修会を実施し参加人数を増やしていきたい。
ウ 防災教育のさらなる充実を目指す。(心から) 【評価指標】 ・ 避難訓練を中学校、高校それぞれ 2 回ずつ行い、緊急時の行動を教員と生徒が理解できるようにする。本校防災マニュアルの見直しを図る。	自己評価 【取組状況 (Do)】 5 月に中学、高校それぞれで避難訓練を行い、防災冊子を全教員、全生徒へ配付した。9 月に「大阪 880 万人訓練」に合わせて 2 回目の避難訓練を行う予定であったが、2 学期始業式の午後実施となり、中止することになった。部会では、避難訓練での反省や、中学新校舎景風館完成に伴う避難経路の設定や見直しを行った。 【達成状況 (Check)】 (○) 年に 2 回の避難訓練を予定していたが、1 回分中止になってしまった。そのため、9 月に「防災だより」として、中高とも Microsoft Teams を使って防災に関する知識や防災意識を高める内容を配信した。

	【今後の改善方策(Action)】 毎年行われる避難訓練をもとに課題をみつけ、外部の講演会にも積極的に参加をし、本校の防災マニュアルを見直していく。
--	--

(4) 重点目標④：学校と家庭の連携を強固にする

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
ア 学校と家庭との連絡を密にする。(教務) 【評価指標】 <高校> ・成績懇談会を年間2回と個人懇談を適宜設ける。 <中学> ・保護者との懇談会を年間2回実施する。	【取組状況(Do)】 既定の年間2回の成績懇談会と夏期休暇中の個人面談を実施した。また成績下位層を含めた生徒に関する情報共有が必要な家庭に対しては、必要に応じて個人面談を実施した。
	【達成状況(Check)】 (高校◎、中学◎) (高校) 学校評価アンケートの結果からも連絡を密に取れていると考えられる。 (中学) 1学期に3者懇談も行うことができた。また、適宜家庭と連絡をとり、生徒の情報を共有することができた。
	【今後の改善方策(Action)】 (高校) オンラインツール等を用いて、学校と家庭の連絡がさらに効率的になるよう検討していく必要がある。 (中学) 生徒・保護者が相談しやすい環境作りを行い、連携をとっていく。保護者が持っている学習に対する不安をくみ上げ、学習補助に役立てられるような取り組みを検討する。
イ ウェブページの充実を図る。(図書・入広) 【評価指標】 ・生徒、保護者対象アンケートで、ウェブページを活用しているという回答が75%以上。	自己評価
	【取組状況(Do)】 昨年度に引き続き、保護者向け中高ポータルサイトの利用活性に向けての働きかけを行った。また、本校ホームページのリニューアルを行った。
	【達成状況(Check)】 (◎) 本校ホームページをより見やすく、使い勝手がよくなるようにリニューアルした。また、アンケートでは90%以上の保護者がポータルサイトを有効に活用していると回答した。
	【今後の改善方策(Action)】 今後も本校ホームページや中高ポータルサイトがより活用されていくように整備、利用の推進を行っていく。

3 アンケートの実施状況について

本校の「学校評価(自己評価)」は、「教員への自己点検・評価アンケート」と共に、「生徒アンケート」・「保護者アンケート」は、中学生・高校生の全生徒・全保護者に行った。内容やスケジュールについては、概ね昨年度を踏襲することとしたが、実施方法は少し変更し、すべてウェブ

上でアンケートに答えてもらった。本校独自の評価項目については、昨年度の同評価及び改善方法等を検討し、本年度の教育活動を点検した上で、10月27日の本校「自己点検・学校評価委員会」において決定した。12月1日にアンケート本文を配信し、12月11日を回収締切日とした。

「教員へのアンケート」の有効回答は61件(回収率81.4%)であった。「生徒アンケート」の有効回答は、高校生が874件(88.3%)、中学生が572件(94.5%)であった。「保護者アンケート」の有効回答は、高校保護者が663件(回収率73.0%)、中学校保護者が417件(回収率84.7%)であった。昨年度からウェブ上での無記名のアンケートを行っているが、2年連続で回収率が低下している。

4 アンケート結果の分析

実施対象別のアンケート結果をもとに以下のように分析した。

A:あてはまる、B:ややあてはまる、C:あまりあてはまらない、D:あてはまらない

(1) 学校全般

昨年度と同様に、今年度の在學生も「楽しく充実した学校生活を送っている」様子が伺える。(A・B合計結果(高校生95%・中学生92%))。また、「この学校に入学させて良かった」と感じている保護者のA・B合計結果(高校94%・中学94%)から、保護者の学校全般に対する満足度も高いことが分かった。その理由として、学業にも、部活動をはじめとする課外活動にも打ち込めるという関西大学の併設校ならではの環境が高く評価されていると考えられる。教員は、生徒・保護者の高い満足度を今後も維持するために、より魅力ある学校づくりに向けた努力を継続することが必要である。ただ、「入学前に描いたイメージ通りの学校でしたか」という質問に対するA・B合計結果が、保護者では高校で83%(昨年度83%)、中学で82%(昨年度85%)であったのに対し、生徒においては高校生で72%(昨年度67%)、中学生で67%(昨年度74%)であった。このことから、保護者に関しては入学前のイメージと入学後の実感のギャップが比較的少ないようであるが、生徒自身、特に高校生にとっては入学前のイメージと入学後の実感のギャップが比較的大きいと感じていると考えられる。このことから、生徒たちが入学前に本校に抱いていたイメージと、入学後に実感している学校観に大きなギャップがあるのであれば、具体的にそのギャップが何であるのかを把握するために、教員は生徒とのコミュニケーションを密にして把握し、不満や心配がある場合には、改善に向けて取り組むべきであると考ええる。

(2) 学校運営

① 私学の独自性

「教育方針・教育目標」について

保護者のA・B合計結果は、高校・中学ともに91%となり、本校の教育方針・教育目標への保護者の理解度が高いことが分かった。生徒のA・B合計結果は、高校で80%、中学で84%であった。今後も生徒たちが関大一中・一高生として望ましく成長していけるよう、全校集会や学年集会、HR等の機会を通して、本校の教育方針や教育目標の理解・実践を促していく必要があると思われる。

② 危機管理

「避難訓練や安全対策」について

保護者のA・B合計結果(高校81%、中学85%)、高校生のA・B合計結果(82%)、中学生のA・B合計結果(83%)は、ともに高い数値であった。具体策として、全学年対象の避難訓練、1年生対象の防犯教室(今年度は中1生のみ開催)を実施した。さらに、日々の地道な取組として、複数教員による登下校時の見守り・指導を継続し、交通機関遅延時の情報提供、振替輸送のための引率等を行った。これらの安全対策が保護者・生徒からの高い評価につながったと考えられる。

「感染症拡大防止策」について

保護者のA・B合計結果は、高校82%(昨年88%)、中学85%(昨年90%)、生徒のA・B合計結果は、高校生で85%(昨年83%)、中学生で83%(昨年86%)と、いずれも8割を超える結果となったが昨年度より数値が下がっている。考えられる理由として、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げに伴い、感染防止対策が緩和されたことに起因していると思われる。学校現場では、引き続き生徒の生命・健康を第一に考えた対策を講じていくことが必要であると思われる。

(3) 教育内容・生徒支援

① 知育

「学力の向上のための組織的な取組」について

「授業を通じ、自分の学力は向上している」と感じている生徒のA・B合計結果は高校79%(昨年75%)、中学83%(昨年84%)で、昨年度と大きな変化は見られなかった。また、「学力向上のための組織的な取組を行っている」という設問に対し、教員の肯定的な回答は59%にとどまった。このアンケートには、教員個人の研究や研鑽を問う設問がないため、個々の教員の研鑽度合いが図れない。しかし、個人研究費や教科出張予算が充実していることから、各教員は自己研鑽に励んでいるであろうと察することができる。従って、個々の教員の知見を共有し、組織としての教育力を高めることによって、生徒の学力をより向上させることが可能であると考えられる。

「電子機器の利用」について

保護者のA・B合計結果が高校89%中学86%、生徒においては高校93%中学93%とともに高い数値となった。現在の在校生は、入学時より一人1台タブレット端末を使用しており、生徒・教員ともにMicrosoft Teamsや電子機器の活用が浸透してきていることが伺える。今後、教員が電子機器をさらに活用し、その実践内容や情報を共有することで、教員・生徒の電子機器のリテラシーの向上と共に、学習方法の多様性が増し、総合的な学力が高まることが期待できる。BYODが整備されたことで、今後は「何で学ぶか」から「何を学ぶか」という教育の本質が問われることになるであろうと思われる。

「スローラーナーへの対応」について

「成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがある」という設問に対する生徒のA・B合計結果は、高校86%中学79%であった。また、「習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取り組みが十分に行われている」という設問に対する保護者のA・B合計結果は、高校74%中学71%であった。スローラーナーへの支援として、改めて本校での学習サイクル（授業→復習・宿題→定期考査→ふり返り）について理解を深めるとともに、日々の地道な学習が重要であることを伝えていく必要があると思われる。

「学力向上のための組織的な取り組みについて」

「学力向上のための組織的な取り組みを行っている」の設問に対しての教員のA・B合計結果は59%であった。「学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている」については、教員のA・B合計結果は80%、「学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている」については、教員のA・B合計結果は90%であった。このことから、学校としての組織的な学力向上策が十分でないと認識している教員が多いことが伺える。一方で、個々の教員は生徒への指導や保護者への連絡をきめ細かく行っていると言え、孤軍奮闘している教員の姿が推し量られる。中高一貫校だからこそ「6年間」を視野に入れた指導計画や、教科横断的な授業等の取り組みを行い、一組織としての教育を推し進めていく必要が有ると思われる。

「保護者との連携」について

「学校からの連絡や懇談は緊密に行われているか」という設問に対する保護者のA・B合計結果は高校79%中学81%であった。「学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている」については、教員のA・B合計結果は90%であった。このことから、概ね保護者との連携が取れていると思われるが、今後も引き続き保護者との友好な関係性を保つことが必要である。

② 徳育

「社会規範の理解とモラルの醸成」について

「社会のルールの遵守、マナーやモラルを向上させる取り組み」についての項目ではA・B合計結果が教員で84%、保護者は高校中学とも86%、生徒は高校82%中学81%であった。全体として高い評価を得ており、今後も継続して指導をし、マナー・モラルの向上に努めたい。

「いじめへの対応」について

「いじめの実態把握と防止」に関する項目ではA・B合計結果が教員で93%、保護者は高校85%中学83%、生徒では高校82%中学77%であった。中学校生徒では「いじめを許さない指導」に関する項目に対して23%の生徒が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答していた。このことから、少数の意見にも真摯に向き合い、いじめを許さない指導をさらに強化する必要があると思われる。

「情報機器とのつきあい方」について

A・Bの合計結果が保護者は高校83%中学79%、生徒は高校87%中学88%であったのに対し、教員では74%であった。中学・高校ともに図書情報部、人権教育部を中心に、学年での人権講演会やHRを通して、SNS・インターネットにおける人権侵害の危険性を啓発する教育が行われている。今後も、個々の教員がさらに研修を重ね、教員自身の情報機器リテラシーを高めるとともに、生徒に対する情報機器の使用方法に関するより良い指導方法を学んでいく必要があると思われる。

③ 体育

「健康な身体づくり」について

保護者・生徒・教員すべてにおいてA・B合計結果が86%～93%と、高い数値となった。保健体育科の正課授業や運動部での指導が、保護者・生徒から高い評価を受けていると思われる。

④ 学校生活

「学習や部活動の施設・設備」について

高校・中学の保護者・生徒のA・B合計結果が83%～89%と高い評価であった。2023年12月に新校舎景風館が完成し、さらに今後の新校舎建設予定もあり、生徒・保護者の満足感・期待感から、昨年度よりも高い数値となったと考えられる。これに対して教員のA・Bの合計結果は49%にとどまった。今後さらに高校新校舎が完成すれば、施設面が拡充される予定なので、生徒の学習や部活動のさらなる充実が期待される。

「生徒会・委員会活動の推進」について

学校行事に対する生徒会・各委員会活動について、A・B合計結果が高校生で96%、中学生で94%、教員で97%と高く評価された。今年度は、新型コロナウイルス感染症の5類引き下げを受けて、高校の関一祭では飲食イベントが復活した。中学校においては、体育大会や合唱コンクールが従来の形に戻して実施することができた。これらのことが、生徒の満足感を上げたと思われる。

「学校行事(宿泊行事・校外学習)」について

本項目ではA・B合計結果は中学生徒で93%、高校生徒で79%であった。中学校と高校での行事の回数の違いが結果に反映されたと考えられる。教員のA・B合計結果は87%、保護者は中学で88%、高校で87%であったことから、宿泊行事や校外学習が、生徒の自主性・自発性を高めていると評価している。

「情操教育」について

中学の保護者、中高の生徒、教員のA・B合計結果は、88%～95%と高評価であったが、高校の保護者では79%であった。一中出身高校生徒の保護者の中には、中学で開催さ

れる芸術鑑賞会への参加経験のある方が多く、高校の古典芸能鑑賞会に参加ができないことを物足りなく感じていらっしゃると思われる。古典芸能は、日本に住む者として自国の文化に関する教養を身に付けるためにも、次年度以降も継続して開催されるべきであると考え

「教員に対する相談」について

保護者のA・B合計結果は、高校で77%、中学で72%、生徒のA・B合計結果は、高校で88%、中学で73%となった。一方で、教員のA・B合計結果は92%となり、生徒・保護者と教員間での大きな隔たりがある。特に中学生徒の数値を見る限り、質問や相談をしやすい雰囲気を感じていない生徒の割合が多いようである。教員はこの結果を真摯に受け止め、生徒とのジェネレーションギャップも考慮しつつ誠実に向き合う姿勢をもつ必要があると思われる。

「人権を配慮した生徒との接し方」について

高校・中学の保護者のA・B合計結果は、84%～86%、生徒のA・B合計結果は、高校生で87%、中学生で78%であったが、教員のA・B合計結果は97%となり、評価が分かれた。中学生徒では肯定的な回答の数値が比較的低くなっている。教員はこの結果を真摯に受け止め、中学生の人権を十分に配慮した言動・指導を心掛けるべきだと思われる。

⑤ 学校間連携

「中高大連携事業の実践」について

高校の保護者A・B合計結果は85%、生徒は92%と高評価であった。一方で、中学の保護者A・B合計結果は69%、生徒75%であった。教員のA・B合計結果は、77%であった。中学校の生徒・保護者の認識よりも高校の生徒・保護者の認識の方が比較的高い。それは、中高大連携プログラムやセミナーが多く開催され、頻繁に連絡がくるので、生徒・保護者の意識も自ずと高くなっていると思われる。その一方、中高大連携のプログラムやセミナーは存在しないので、上記結果は当然のことであると思われる。

「進路情報の提供」について

高校の保護者・生徒のA・B合計結果は、保護者が89%、生徒が94%であった。中学の保護者・生徒のA・B合計結果は82%～84%であった。高校においては、生徒・保護者の肯定的な回答の割合が非常に高く、今後も適時的確に情報提供を行いたい。中学においては、将来展望や大学受験が切迫感を伴うものでないので、高校と比較すると数値的に低くなるも当然であるが、決して低い数値ではなく高評価を得ているものだと思われる。しかしながら、高校進学を考える際、関大一高以外の進路を選ぶ生徒に対しては、できる限り早く、多くの進路情報を提供できるよう心掛けるべきであると思われる。

⑥ カウンセリング

「カウンセリング体制」について

高校・中学校の保護者のA・B合計結果は、82%～84%、高校生のA・B合計結果は82%、中学生のA・B合計結果は74%であったことから、生徒・保護者からは、概ね、カウンセリング体制について高評価を受けていると思われる。しかし、教員のA・B合計結果が97%であったことを考えると、教員が思うほどには、生徒・保護者がカウンセリング体制の充実を感じているわけではないとも言える。特に、中学生にとっては、カウンセリングを受けることに、比較的、抵抗感があると見受けられる。

昨今、生徒が抱える問題は、学習問題、将来に対する漠然とした不安、いじめ、SNSトラブル、家族に関わる問題、Overdose、LGBTQの問題など多岐にわたる。そのような心の奥深い問題を抱える生徒に寄り添うべく、教員は常に生徒の様子に目を配り、変化を察知し、適切な声掛けや支援をする必要がある。これまで以上に、生徒と保護者にとって、教員が相談しやすい、心の許せる相手でいられるよう、教員自身が常に心がける必要がある。これには、教員が生徒に広く目を配れるような心のゆとりを持てる職場環境の維持も重要であると思われる。

教員の力だけでは足りない点は、スクール・カウンセラーの力も非常に重要になるだろうと思われる。カウンセリング・ルームが、より身近で垣根の低い相談の場となるよう、カウンセラーの増員、利用時間の拡充も、あわせて検討すべきだと考えられる。

(4) 研修

「校内外における教員研修」について

「工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか」という設問に対する中学生のA・B合計結果は87%、高校生のA・B合計結果は80%であり、高い評価が得られた。高校生の評価の方が比較的低いことから、高校所属の教員も、大学入試突破のための指導に偏ることなく、生徒の知的好奇心を刺激することを意識して授業を行うことが必要であると思われる。

「本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われますか」という設問に対する中・高保護者のA・B合計結果は81%～82%であり、保護者にも概ね高い評価を得ていると思われる。

一方、教員対象の「本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している」という設問に対するA・B合計結果は72%であり、比較的低い値となった。本校では、全ての教員が、日々、授業準備・生徒の生活指導・校務・保護者対応・部活動など多岐にわたる膨大な業務に追われ、実に多忙である。それが、この数値に表れているとも考えられる。

学校教育の根幹をなす授業・教科指導の充実は、教員の自己研鑽によってこそ成し得るものと思われる。実際に、自身の指導教科に関する学会で学びを深め、研修会・ワークショップ等に頻繁に参加して自己研鑽に努める教員も存在する。今後も、教員としての資質向上に努めようとする教員が増えていくことが望まれる。そのためには、教員の熱意に期待するだけでなく、教員のさらなる学びをバックアップする労働環境・研修体制の整備も必要であ

と思われる。

(5) その他

「食堂」について

生徒のA・B合計結果は、高校生が91%、中学生が79%となった。保護者のA・B合計結果は高校が71%、中学が61%であった。生徒と保護者の回答の間に大きな隔たりがみられた。このアンケートからは、保護者の肯定的な回答が伸び悩んだ具体的な理由は見えないが、今後は、生徒・保護者ともに使用しやすい食堂の在り方を考えていく必要があると思われる。

「保護者ポータルサイト」について

保護者・教員ともA・B合計結果は91%～92%となり、高い満足度がうかがえる。職員室の様子を見ていても、ポータルサイトによる欠席確認が定着しているように思われる。今後も、効率的な欠席確認・連絡ツールとして活用されることが期待できる。

5 学校関係者評価委員会からの評価結果

第一中学校保護者代表としてPTA会長増田剛氏、第一高等学校保護者代表として教育後援会会長大川恵氏、多数の生徒たちの進学先である関西大学の教学を代表して関西大学人間健康学部教授安田忠典先生に今回のアンケート結果や自己評価に関するご意見を頂戴した。今後の本校教育にとって貴重なご意見、ご要望を頂戴することができた。以下、それらのご意見を記述する。

【関西大学第一中学校 PTA会長 増田剛氏】

学校生活に関する全般的な評価において、保護者や生徒の90%以上が学校生活に満足していると回答しており、生徒は特に学校に充実感を抱いていることが明らかです。これは素晴らしい結果であり、学校全体が生徒や保護者にとって居心地の良い環境を提供していることを示しています。ただし、入学前に想像していた学校生活と異なると感じる生徒が約30%いるとの結果があります。これについては今後、学校として入学前の情報提供や期待値の調整に工夫が必要であることを示唆しています。学校説明会が高い評価を得ている一方で、生徒の実際の経験とのギャップが見られる点に留意する必要があります。

生徒たちは学校生活に充実感を抱き、入学したことに対する満足度が高いことがアンケート結果から分かります。学校の教育方針や目標に共感し、豊かな学びの機会を享受しているようです。安全対策や災害時の行動指針に関する情報提供が十分であり、生徒は感染症対策が適切に行われていると認識しています。安心して学びを進めるための環境整備がしっかりと行われていることが伝わります。ICT機器、特にiPadなどを利用した授業が理解に役立っていると高い割合で回答しており、現代的な教育手法の取り入れが効果的であることが分かります。また、授業や学校行事において、生徒が主体的に参加し積極的に活動できているようです。総じて、学校は生徒一人ひとりが安心して学び、成長できる環境を整え、教育目標を着実に達成するために様々な施策を進めているようです。生徒が学び舎としての関大一中に誇りを持ち、将来への希望を抱きなが

ら学べるよう、引き続きの発展を期待します。

【関西大学第一高等学校 教育後援会会長 大川恵氏】

学校生活全般に関して、95%の生徒が「楽しく充実した学校生活を送っている」と回答し、94%の保護者が「この学校に入学させて良かった」とし、学校に対しての満足度が高く、素晴らしいことだと思います。

次に、各アンケートより感じた点を3点コメント申し上げます。「学力の向上の為の組織的な取り組みを行っている」という設問で、教員アンケートの肯定的回答が59%にとどまったことは少し残念に思いますが、一方で個々を見ると、生徒アンケートの「工夫された授業や面白い実験などが取り入れられていると思いますか」という設問に対しては80%以上の高い評価を得ています。先生方は日々の授業、保護者対応、部活動など大変忙しい中、補習等も行いフォローし多忙だと思いますが、今後も個々の先生方に生徒の知的好奇心が喚起するような授業を行っていただき、生徒の学力を向上させることが、組織としての教育力を高めることに繋がると思います。また、「iPad等の電子機器は授業の内容に役立っていると思いますか」という設問に対し、90%以上の生徒が、学習効果が上がったと回答しています。タブレット端末の活用がしやすくなり、理解が深まり、ネットワーク環境が整った結果だと思います。今後更に、先生、生徒の電子機器のリテラシーが向上し、様々な学習方法や取り組みにより、生徒たちの学力が高まることに期待致します。「学習や部活動の施設・設備は充実している」について、教員アンケートの肯定的な意見が50%以下と低く、2026年の高校新校舎の完成まで、建設工事などで学校での授業や部活動においても支障があると思います。校外での授業・クラブ活動なども、もし可能であれば、大学の施設を活用するなどすれば少しは改善できるのではないかと考えます。教員・生徒の充実した学校生活ができるよう検討頂ければと思います。

【関西大学人間健康学部 教授 安田忠典 先生】

長期間にわたったコロナ禍がようやく収束し、学校生活がかたちの上ではもとに戻りつつあるように見えます。しかし、昨年度の報告書でも触れさせていただいたとおり、この間、若者たちの気質や勉学への取り組み方は大きく変わってきています。これまで学校現場で、あるいは教育職員の間では当たり前とされてきた生徒たちへのアプローチも見直さざるを得なくなってきました。具体的には、単なる知識の伝達ならばオンラインで十分であるということが浮き彫りになったため、明確な「学校で学ぶ理由」を示す必要があるということであると思われます。それはつまり、これまでコロナ禍で何度もお伝えしましたが、対面でしか得られない豊かな「体験」の機会、このことに尽きます。先生や仲間との「生」のコミュニケーション、これも大切な「体験」であります。この「体験」という視点から、アンケートの結果をみてみたいと思います。

まず教職員へのアンケート結果から、ネガティブな評価が目立ったものをみてみます。概ね「1. あてはまらない」「2. あまりあてはまらない」を合わせて20%を超える項目を抽出してみました。改築中ということで施設関連の項目は除外しました。

「建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。」「職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。」「学力向上のための組織的な取り組みを行っている。」「情報機器の正しい使い方について、適切な指導をおこな

っている。」「高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携が積極的に行われている。」「本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。」これらのうちで、「情報機器…」以外は、かかわりやコミュニケーションなど人や組織の「あり方」が根底にある課題であるとみることができるでしょう。

次に、保護者へのアンケート結果です。中高ともにほぼ同じ項目が低評価となっています。「災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていると思われますか。」「本校は学力向上のために組織的な取り組みを行っていると思われますか。」「習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取り組みが十分に行われていると思われますか。」「勉強や学校生活について、ご子女から教員に質問や相談ができる関係が作られていると思われますか。」「中大、中高の学校同士の教育連携が積極的に行われていると思われますか。」保護者の立場からも、やはりかかわりやコミュニケーション、そして防災などに関する項目が低評価となっています。

最後に生徒へのアンケート結果ですが、こちらもやはりよく似た傾向が認められます。「本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。」「災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていますか。」「成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。」「いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。(中学校のみ)」「勉強や学校生活について、先生に質問や相談ができる雰囲気でしたか。」「先生の指導方法は、人権に配慮したものであると感じますか。

(中学校のみ)」「中大、中高の学校同士の教育連携があると思いますか。(中学校のみ)」「悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。(中学校のみ)」とくに中学校ではいじめや人権に関する項目が目立ちます。逆に高校は低評価の項目はわずかですが、「成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。」が中学生、そして保護者とも共通して低評価である点が気になります。

さて、冒頭に挙げた観点から、これらの課題へのアプローチについて考えてみたいと思います。生徒や保護者の立場からすると、たとえばSDGsが掲げる「No one will be left behind ～誰一人取り残さない」のような、安全で安心な学びの場が期待されているのではないのでしょうか。そこで求められている教職員やその組織の「あり方」は、絶対的な情報や権限の所有者からの一方的な「指導」ではなく、対話や共感を基盤としたカウンセリングマインド溢れる「コミュニケーション」であるはずです。学校現場は、そして我々教育職員は、このような時代の流れをしっかりと意識すべきだと思います。

また、教職員の立場で考えると、先生方のアンケートにあるとおり、よりよい「会議」や「研修」、そして「中高大連携」など、やはり活発なコミュニケーションこそがすべての課題への基盤となると考えることができるようです。この点につきましては、11月28日に小職を「教員対象人権教育研修会」にお招きいただき、人間健康学部で成果をあげている体験学習法の一つである「アドベンチャー・プログラム」を紹介させていただくことができました。手前味噌なことで恐縮ですが、これまで述べてきたような課題についても、すでに積極的に着手されているわけがあります。

アフターコロナの時代、円安や国際紛争など混迷は深まるばかりですが、そのような時代で

あるからこそ、若者たちには安全・安心な学びの場で夢や希望をはぐくんでいただきたいと思いますし、そのためにすべての関係者が手を携えて努力をしていきたいものです。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

6 校長の意見書

関西大学第一高等学校・第一中学校

校長 狩場治秀

本校では、学力をつけることのみにとらわれる教育ではなく、「正義を重んじ、誠実をつらぬく教育」を教育方針とし、学校生活を通して、知識の習得、道徳心の育成、体力の向上等、一般的にいわれる「知、徳、体」のバランスのとれた生徒育成を目指し、生徒自らがやりたいことに積極的に取り組める環境を整え、勉強のみならず部活動や生徒会活動等を通じて人間力を養う教育をおこなうことを目指し日々努力している。質問項目にある「学校生活は楽しいと感じていますか」や「この学校に入学して(させて)良かったと思いますか」と感じている保護者、生徒が、高い水準で肯定的な回答を得られた。しかし、これに驕ることなくサポートをしていきたい。ただ、「入学前に描いたイメージ通りでしたか」という質問には、肯定的な回答が、高校 72%、中学 67%であった。この背景には、自由な校風のイメージをはき違え、若干の戸惑いを感じている結果なのかもしれない。しかし、5年前行われたアンケートでは、高校の肯定的な回答が 54%であったことを考えると、改善傾向にあると思われる。

そして、「学習や部活動の施設・設備」については、昨年度より高いアンケート結果が得られた。これは 2023 年 12 月に新校舎景風館が完成したことが影響していると考えられる。図書エリア、プレゼンテーションエリア、コモンズエリア、特別教室エリアを有し、部活動でも使用可能な多目的ホールも魅力であるが、アンケート実施は、新校舎完成前の 12 月上旬であったことを考えると、来年度の満足度がどのようになっているか楽しみである。さらに、これらの新しい施設を使って、今までになかった新たな教育活動に努力しいていく所存である。「中高大連携事業の実践」についても、中学の生徒・保護者のアンケート結果は、高校に比べ 20%近く低い水準であるが、この点は新校舎を利用しながら来年度の課題として取り組んでいきたい。

最後に、5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴って、生徒たちの学校生活の充実が伺える。すべてのことをコロナ禍前に戻すのではなく、新しく一歩前に進んだ関西大学第一高等学校および第一中学校に育てる努力を惜しまず、生徒や保護者により一層満足してもらえるよう、教職員一同精進していく。

7 アンケート結果 資料

資料 1 2023 年度 学校評価集計結果表 (教員)

資料 2 2023 年度 学校評価集計結果表 (保護者：高校)

資料 3 2023 年度 学校評価集計結果表 (保護者：中学校)

資料 4 2023 年度 学校評価集計結果表 (生徒：高校)

資料 5 2023 年度 学校評価集計結果表 (生徒：中学)

以 上

2023年度 学校評価 集計結果表

集計対象	教員	有効回答数	61
------	----	-------	----

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	本校の生徒は充実した学校生活を楽しんでいる。	30	31	0	0	49.2%50.8%0%
2	本校に入学した生徒・保護者の満足度は高い。	16	43	2	0	26.2%70.5%3%
3	学校説明会は、本校の学校生活を紹介するのに役立っている。	35	25	1	0	57.4%41.0%1.6%
4	建学の精神に基づく教育方針・教育目標は、教職員・保護者などの関係者によく浸透している。□	9	38	12	2	14.8%62.3%19.7%3%
5	職員会議や学年会議、教科会議などが効率よく機能的に運営されている。□	4	26	20	11	6.6%42.6%32.8%18.0%
6	警察や消防署と連携し、避難訓練や安全講習会を開くなどの安全対策を講じている。□	30	25	5	1	49.2%41.0%8.2%
7	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられている。□	23	27	10	1	37.7%44.3%16.4%
8	校内での感染症拡大防止策は、適切に行われている。□	23	28	9	1	37.7%45.9%14.8%
9	学力向上のための組織的な取り組みを行っている。□	7	29	22	3	11.5%47.5%36.1%5%
10	学力不足生徒へのフォローのために補習授業や個人指導を行っている。□	17	32	12	0	27.9%52.5%19.7%0%
11	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	28	27	6	0	45.9%44.3%9.8%
12	生徒に学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取り組みを行っている。□	20	31	7	3	32.8%50.8%11.5%
13	いじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見に努める体制が整い、学校組織として共有できている。	29	28	4	0	47.5%45.9%7%
14	情報機器の正しい使い方について、適切な指導をおこなっている。	18	27	15	1	29.5%44.3%24.6%2%
15	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導を行っている。	25	30	5	1	41.0%49.2%8%
16	学習や部活動の施設・設備は充実している。	5	25	22	9	8.2%41.0%36.1%15%
17	関一祭や体育大会などの学校行事において、生徒会や各委員会は積極的に活動している。	41	18	2	0	67.2%29.5%3.3%
18	宿泊行事や校外学習など、校外での活動・学習は、生徒の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習を促すことに役立っている。□	31	22	7	1	50.8%36.1%11.5%
19	本校の芸術・美術鑑賞は、充実している。□	34	24	2	1	55.7%39.3%3.3%
20	勉強や学校生活について、生徒からの質問や相談を受けやすい関係を作っている。	23	33	5	0	37.7%54.1%8.2%
21	生徒の人権に配慮した指導をおこなっている。	29	30	2	0	47.5%49.2%3%
22	高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携が積極的に行われている。	9	38	12	2	14.8%62.3%19.7%3%
23	進路に関する情報は、生徒に提供されている。	24	30	6	1	39.3%49.2%9.8%2%
24	生徒・保護者の悩みに対して、教員による相談体制やカウンセリング体制が学校全体として整っている。	20	39	2	0	32.8%63.9%3.3%
25	本校は、教員の資質向上、生徒の知的好奇心を喚起する授業構成のための校内外の研修体制が充実している。	13	31	17	0	21.3%50.8%27.9%0%
26	保護者ポータルサイトを有効に活用できていると思われますか。	34	22	5	0	55.7%36.1%8%0%

2023年度

学校評価 集計結果表

集計対象	保護者	有効回答数	663
------	-----	-------	-----

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われますか。	306	298	55	4	46.2%44.9%8.3%1%
2	保護者として、この学校に入学させてよかったと思われますか。	373	252	34	4	56.3%38.0%5.1%1%
3	本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。	199	349	101	14	30.0%52.6%15.2%2%
4	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。□	202	404	51	6	30.5%60.9%7.7%1%
5	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われますか。□	126	410	114	13	19.0%61.8%17.2%2%
6	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていると思われますか。	137	361	150	15	20.7%54.4%22.6%2%
7	校内での感染症拡大防止対策は、適切に行われていると思われますか。□	168	378	108	9	25.3%57.0%16.3%1%
8	本校は学力向上のために組織的な取り組みを行っていると思われますか。□	147	336	162	18	22.2%50.7%24.4%3%
9	iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っていると思われますか。□	264	326	59	14	39.8%49.2%8.9%2%
10	習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取り組みが十分に行われていると思われますか。□	149	338	151	25	22.5%51.0%22.8%4%
11	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。	188	334	123	18	28.4%50.4%18.6%3%
12	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取り組みが行われていると思われますか。	195	375	78	15	29.4%56.6%11.8%2%
13	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。□	185	379	87	12	27.9%57.2%13.1%2%
14	情報機器の正しい使い方に関する指導が適切に行われていると思われますか。□	147	404	94	18	22.2%60.9%14.2%3%
15	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。	201	372	80	10	30.3%56.1%12.1%2%
16	学習や部活動の施設・設備は充実していると思われますか。□	225	323	93	22	33.9%48.7%14.0%3%
17	宿泊行事や校外学習など、校外での活動・学習は、ご子女の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習を促すことに役立っていると思われますか。□	238	337	72	16	35.9%50.8%10.9%2%
18	古典芸能鑑賞は、ご子女の情操教育に役立っていると思われますか。	167	355	120	21	25.2%53.5%18.1%3%
19	勉強や学校生活について、ご子女から教員に質問や相談ができる関係が作られていると思われますか。□	160	348	136	19	24.1%52.5%20.5%3%
20	教員の指導方法は、人権に配慮したものになっていると思われますか。□	181	391	71	20	27.3%59.0%10.7%3%
21	高大の教育連携が積極的に行われていると思われますか。□	241	323	88	11	36.3%48.7%13.3%2%
22	ご子女の進路に関する情報は、提供されていると思われますか。□	244	349	65	5	36.8%52.6%9.8%1%
23	ご子女に何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われますか。□	177	365	103	18	26.7%55.1%15.5%3%
24	本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われますか。	167	368	115	13	25.2%55.5%17.3%2%
25	食堂は、利用しやすいと思われますか。□	163	306	155	39	24.6%46.2%23.4%6%
26	欠席連絡やお知らせの配信など、保護者ポータルサイトを有効に活用できていると思われますか。□	306	300	49	8	46.2%45.2%7.4%1%

集計対象	保護者	有効回答数	417
------	-----	-------	-----

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	ご子女は、生き生きとした学校生活を送っていると思われますか。	206	170	32	9	49.4%40.8%7.7%2%
2	保護者として、この学校に入学させてよかったと思われますか。	228	164	23	2	54.7%39.3%6%0%
3	本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。	126	216	63	12	30.2%51.8%15.1%3%
4	本校の教育方針・教育目標を理解されていますか。□	144	236	35	2	34.5%56.6%8.4%0%
5	避難訓練や安全対策など積極的な対策を講じていると思われますか。□	105	249	58	5	25.2%59.7%13.9%1%
6	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていると思われますか。	90	215	100	12	21.6%51.6%24.0%3%
7	校内での感染症拡大防止対策は、適切に行われていると思われますか。□	148	206	58	5	35.5%49.4%13.9%1%
8	本校は学力向上のために組織的な取り組みを行っていると思われますか。□	107	204	88	18	25.7%48.9%21.1%4%
9	iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っていると思われますか。□	154	203	43	17	36.9%48.7%10.3%4%
10	習熟度の遅れた生徒へのフォローや補習授業の取り組みが十分に行われていると思われますか。□	104	192	98	23	24.9%46.0%23.5%6%
11	学校からの連絡や懇談は緊密に行われていると思われますか。	137	201	68	11	32.9%48.2%16.3%3%
12	学校や社会のルールを遵守させ、生徒としてのマナーやモラルを向上させる取り組みが行われていると思われますか。	146	214	47	10	35.0%51.3%11.3%2%
13	いじめを許さない学校・学級作りに積極的に取り組んでいると思われますか。□	124	223	56	14	29.7%53.5%13.4%3%
14	情報機器の正しい使い方に関する指導が適切に行われていると思われますか。□	97	232	74	14	23.3%55.6%17.7%3%
15	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの指導が行われていると思われますか。	147	231	37	2	35.3%55.4%8.9%0%
16	学習や部活動の施設・設備は充実していると思われますか。□	190	156	59	12	45.6%37.4%14.1%3%
17	宿泊行事や校外学習など、校外での活動・学習は、ご子女の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習を促すことに役立っていると思われますか。□	200	166	42	9	48.0%39.8%10%2%
18	芸術鑑賞会や美術鑑賞会は、ご子女の情操教育に役立っていると思われますか。	206	173	32	6	49.4%41.5%8%1%
19	勉強や学校生活について、ご子女から教員に質問や相談ができる関係が作られていると思われますか。□	88	214	101	14	21.1%51.3%24.2%3%
20	教員の指導方法は、人権に配慮したものになっていると思われますか。□	124	226	51	16	29.7%54.2%12.2%4%
21	中大、中高の学校同士の教育連携が積極的に行われていると思われますか。□	87	199	110	21	20.9%47.7%26.4%5%
22	ご子女の進路に関する情報は、提供されていると思われますか。□	118	225	66	8	28.3%54.0%15.8%2%
23	ご子女に何らかの問題が生じたとき、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思われますか。□	122	226	59	10	29.3%54.2%14.1%2%
24	本校の教員は、教材研究や指導力の向上に努めようとしていると思われますか。	110	232	58	17	26.4%55.6%13.9%4%
25	食堂は、利用しやすいと思われますか。□	80	175	135	27	19.2%42.0%32.4%6.5%
26	欠席連絡やお知らせの配信など、保護者ポータルサイトを有効に活用できていると思われますか。□	220	165	28	4	52.8%39.6%6.7%1%

2023年度 学校評価 集計結果表

集計対象	生徒	有効回答数	874
------	----	-------	-----

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	学校生活は楽しいと感じていますか。	517	313	42	2	59.2%35.8%5.0%
2	この学校に入学してよかったと思いますか。	459	347	62	6	52.5%39.7%7.1%
3	本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。	195	430	206	43	22.3%49.2%23.6%4.9%
4	本校の教育方針を理解していますか。□	249	451	147	27	28.5%51.6%16.8%3.1%
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すれば良いのか、指示を受けていますか。□	282	436	133	23	32.3%49.9%15.2%3%
6	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていますか。□	302	383	158	31	34.6%43.8%18.1%4%
7	校内での感染症拡大防止策は、適切に行われていると思いますか。□	295	444	114	21	33.8%50.8%13.0%2%
8	授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。□	254	434	151	35	29.1%49.7%17.3%4%
9	iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っていると思いますか。	541	269	51	13	61.9%30.8%5.8%
10	成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。□	346	401	107	20	39.6%45.9%12.2%2%
11	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。□	415	317	117	25	47.5%36.3%13.4%3%
12	生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。□	309	408	126	31	35.4%46.7%14.4%4%
13	いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。□	375	344	132	23	42.9%39.4%15.1%3%
14	情報機器の正しい使い方に関する指導によって、規範意識が高まったと思いますか。□	357	404	91	22	40.8%46.2%10.4%3%
15	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	422	382	59	11	48.3%43.7%6.8%
16	学習や部活動の施設・設備は充実していると思いますか。	374	380	100	20	42.8%43.5%11.4%2%
17	関一祭において、生徒会や各委員会は活躍していたと思いますか。□	587	251	31	5	67.2%28.7%4%
18	宿泊行事や校外学習など、校外での活動、学習は充実していると思いますか。□	368	324	150	32	42.1%37.1%17.2%3.7%
19	狂言・文楽鑑賞会は、古典芸能に触れるいい機会だったと思いますか。□	407	364	77	26	46.6%41.6%8.8%3%
20	勉強や学校生活について、先生に質問や相談ができる雰囲気でしたか。□	369	396	89	20	42.2%45.3%10.2%2%
21	先生の指導方法は、人権に配慮したものであると感じますか。□	357	406	85	26	40.8%46.5%9.7%3%
22	高大の教育連携があると思いますか。□	464	336	64	10	53.1%38.4%7.3%
23	進路に関する情報は、提供されていると思いますか。	495	327	41	11	56.6%37.4%4.7%
24	悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。□	313	399	144	18	35.8%45.7%16.5%2%
25	工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。□	343	355	147	29	39.2%40.6%16.8%3.3%
26	食堂は、利用しやすいですか。□	520	273	67	14	59.5%31.2%7.7%2%

2023年度 学校評価 集計結果表

集計対象	生徒	有効回答数	572
------	----	-------	-----

No	設問文	回答数				満足度グラフ
		4. あてはまる	3. ややあてはまる	2. あまりあてはまらない	1. あてはまらない	
1	学校生活は楽しいと感じていますか。	295	230	37	10	51.6%40.2%6%2%
2	この学校に入学してよかったと思いますか。	281	230	44	17	49.1%40.2%7.7%3%
3	本校での学校生活は、入学前に描いたイメージ通りでしたか。	108	275	142	47	18.9%48.1%24.8%8.2%
4	本校の教育方針を理解していますか。□	176	306	60	30	30.8%53.5%10.5%5%
5	事故、事件、災害が発生したとき、どのように行動すれば良いのか、指示を受けていますか。□	237	236	77	22	41.4%41.3%13.5%4%
6	災害や事件・事故などにより帰宅困難になったとき、安全確認のための手段が講じられていますか。□	216	240	90	26	37.8%42.0%15.7%5%
7	校内での感染症拡大防止策は、適切に行われていると思いますか。□	192	283	73	24	33.6%49.5%12.8%4%
8	授業を通じ、自分の学力は向上していると感じていますか。□	173	302	77	20	30.2%52.8%13.5%3%
9	iPadなどの電子機器は授業の内容を理解するのに役立っていると思いますか。	355	175	27	15	62.1%30.6%4.7%3%
10	成績が低迷した場合、補習授業で適切なフォローをしてもらえる仕組みがあると感じていますか。□	218	232	92	30	38.1%40.6%16.1%5%
11	自分の学習状況を保護者も把握していると思いますか。□	280	200	75	17	49.0%35.0%13.1%3%
12	生徒としてのマナーやモラル向上のための指導によって、規範意識が昨年より高まったと思いますか。□	213	253	72	34	37.2%44.2%12.6%6%
13	いじめを許さない指導が日常的に行われていると思いますか。□	236	204	94	38	41.3%35.7%16.4%7%
14	情報機器の正しい使い方に関する指導によって、規範意識が高まったと思いますか。□	256	248	50	18	44.8%43.4%8.7%3%
15	基本的生活習慣や健康な身体づくり、基礎体力づくりの仕方を学びましたか。	314	219	31	8	54.9%38.3%5%1%
16	学習や部活動の施設・設備は充実していると思いますか。	303	205	45	19	53.0%35.8%7.9%3%
17	球技大会、体育大会において、生徒会や各委員会は活躍していたと思いますか。□	360	175	28	9	62.9%30.6%5%2%
18	宿泊行事や校外学習など、校外での活動、学習は充実していると思いますか。□	376	154	26	16	65.7%26.9%5%3%
19	芸術鑑賞会の内容は満足のいくものでしたか。□	339	187	32	14	59.3%32.7%5.6%2%
20	勉強や学校生活について、先生に質問や相談ができる雰囲気でしたか。□	169	251	113	39	29.5%43.9%19.8%7%
21	先生の指導方法は、人権に配慮したものであると感じますか。□	195	252	78	47	34.1%44.1%13.6%8%
22	中大、中高の学校同士の教育連携があると思いますか。□	196	235	108	33	34.3%41.1%18.9%6%
23	進路に関する情報は、提供されていると思いますか。	238	244	70	20	41.6%42.7%12.2%3%
24	悩みが生じたときに、担任をはじめとする教員、学校カウンセラーに相談ができる体制ができていると思いますか。□	171	252	103	46	29.9%44.1%18.0%8.0%
25	工夫された授業や、おもしろい実験などが取り入れられていると思いますか。□	276	222	51	23	48.3%38.8%8.9%4%
26	食堂は、利用しやすいですか。□	281	173	81	37	49.1%30.2%14.2%6.5%